

多くの人と出会って人間力を

教育委員長 朝貝 加代子



春は出会いの季節です。学校で、職場で、各団体で、どんな人と出会えるか心躍ります。

さて、昨年の東日本大震災は、私たちの価値観を一変させました。大自然の前で、人間は何と無力なのか。しかし同時に、人と人が助け合うことによって、いかに大きな力になっていくのか思い知らされました。そして、生きていくためには何が大切であるのか、改めて考えさせられました。困難に遭遇した時の判断力、創造力、人と人との絆、協調性、思いやりの心などの「生

きる力」すなわち「人間力」を身につけることが重要になってきます。

これは下諏訪町の子どもたちにとっても、例外ではありませぬ。「人間力」を構築するためには、日頃から多くの人と出会い、いろいろなことを体験していくことが必要です。

下諏訪は小さな町ですが、それだからこそできることも、たくさんあります。小学校二校、中学校二校のわが町では、九年間を通して子どもたちの成長を見守っていく小中一貫教育が可能です。小・中学生がともに学び合う縦の関係、下諏訪中学校区と社中学校区が相互に連携し

ていく横の関係、さらに地域の方々が子どもたちの活動に関わる斜めの関係、この三つの関係づくりによって、子どもたちは豊かな社会性を身につけていきます。学校では英語教育、JAXAによる宇宙事業、総合的学習の充実にありますし、地域では学校地域支援本部の活動を進めています。私たち一人ひとりが、できる範囲で子どもたちと関わり、サポートしていきたいと思えます。

人との出会いの中で、人間は成長していきます。人は一生に何人と出会うでしょう。本当にごくわずか限られた人数です。出会いは偶然ではなく、必然という気がします。私たち自身、人との出会いを大切に、町の宝である子どもたちが、たくましく社会の中で生き抜いていける人間になるよう、みんなの力で育てていきましょう

四月のこころ

四月の雨池は静かである。下界では桜が咲き春爛漫。北八ヶ岳の雨池は、雪の中である。残雪期の雨池を訪れるには、二つのルートが考えられる。一つは、メルヘン街道が開通する四月下旬まで待つ。他は、文明の利器のロープウェイを利用して一気に坪庭までのぼり、観光客と別れて雨池を目指すコース。ただし、この時期、ロープウェイは整備点検のため運休していることがあるので、意気込んで出かけて行ってもうなだれて帰路につくことにもなる。あの坂道を二時間かけて登りきり、雨池を目指す体力はもつない。



四月の雨池には、誰もいない空間がある。見るべきものは何も無いが、開放感に満ちている。(古屋)

気持ちを新たに花の4月

四月は花とともに



ガーデニング好きの私の四月は、春の寄植えづくりで始まります。園芸店やガーデンセンターに出かけて、仕入れてきた花やハーブ類、ミニバラ、アイビー・ペアグラスなどの葉物…。それらをコンテナの中に入れてくれ並べ替えてはアレンジし、次々と植え込んでいく作業の楽しいこと！時間を忘れて夢中になります。園芸好きが高じて、一昨年、ガーデンコーディネーターの資格も取ってしまいました。

数年前から、心をこめてつくった寄植えを、お世話になってる方や主人の仕事のお客様にプレゼントしています。「好き嫌いもあるでしょうし…」と迷

武居北 笠原 真由美

いながら始めたことでしたが、「なんて美しいのでしよう。感動しています」とお礼状を送ってくださった方や、「奥さまへ、お花のお礼に」とチョコレートのお箱を主人に持たせてくださった方、また「庭に移植したら、今年も咲きました！」と伝えてくださった方など、みなさんの優しい反応に、「花は最高の贈りもの！」との思いを強くしました。



庭の花を飾る

寄植えにかぎらず、花には数々の忘れがたい思い出があります。誕生日に主人からプレゼントされたミモザのブーケ、長男を出産したときに友人が届けてくれたチューリップの花束、お茶の稽古の帰り際に先生が持たせて下さった秋の草花、初めてのアルバイト代で長女が買ってきてくれたスイートピーのミニブーケ…。それ以来、四月には必ずスイートピーを生けるようになりしました。そしてまだ記憶に新しい、昨年八月、急逝した松田直樹樹手に献花するために、スタジアムまで抱えて行った夏色の花束。

私にとって、花は、どんなときも喜びを増幅し悲しみを慰める、純粋な想いの表れであった気がします。花と庭のない生活は想像もできません。

「たのしみは 朝おきいでて 昨日まで 無かりし花の 咲けるを見るとき」という、江戸時代の国学者橘曙覧(たちばなのあけみ)の歌を最近知りました。



花いっぱいの我が家の玄関

四月から秋まで、まさにこの歌のような「花ぐらし」が続きます。

そして晩秋、初霜が降りる前に、来年のための球根を植え、種をまきます。すべての作業を終えて、熱いミルクティーを手に落葉掃きの済んだ庭を眺めているひととき。人生はなんて豊かなのでしよう。

あとは、春の庭を夢見ながら、静かに冬の日々を過ごすのです。ふたたび、四月の光と出会うまで。

気持ちを新たに花の4月～花にまつわる私の4月～